

2026 年 7 月 9 日

HSBC アセットマネジメント

2026 年ミッドイヤーにおける中間見通し：「別世界」にある経済と市場

- 「2 つのショックと 1 つのブーム」：マクロ経済や地政学的な環境が不安定さを増す中、堅調な企業業績、安定した金利、AI 投資に支えられ、市場は底堅さを維持しています。
- 世界経済は混迷を極めていますが、市場は不透明感が続く中でも、上昇基調を維持できるでしょう。
- 投資家は AI 関連の波及効果や生産性向上による恩恵を受けているセクターへの投資機会を見出せるかもしれません。

2026 年下期を展望するにあたり、厳しい世界経済環境と驚くほど底堅い金融市場とのかい離が生じてきています。HSBC アセットマネジメントの中間見通しは、経済と市場は「別世界」に存在していると指摘しています。

経済がたび重なる供給側のショックや地政学上の不確実性に直面している可能性がある環境下でも、今年上期の市場は落ち着きを保ち、堅調なリターンを記録しました。

当社は、現在の環境を「2 つのショックと 1 つのブーム」によって形作られていると特徴づけています。すなわち、地政学やエネルギーに関連する供給側の混乱と、強力な AI 投資サイクルです。これらの要因は、マクロ経済の動きを一律に語れない状況にしている一方で、セクターや地域を問わず新たな機会も創出しています。

新興国市場は、株式、債券、通貨のすべてにおいて特に良好なパフォーマンスを示しており、アジアのテクノロジーセクターや中南米の資源セクターの堅調さから恩恵を受けています。企業においては収益が堅調に推移しており、世界的に予想を上回る利益が計上されているほか、供給側のショックも企業の収益性に大きな悪影響を与えていません。堅調な利益と安定した資金調達環境が相まって、市場のボラティリティを抑制する一因となっています。

HSBCアセットマネジメントのグローバル・チーフ・ストラテジストであるジョー・リトルは次のように述べています。「市場はこうした影響を振り切れたようで、今年上期の市場リターンは好調に見えます。2026年のニュースの見出しを踏まえると、リターンの良さが改めて浮き彫りになります。」

2026年下期を展望すると、市場が断続的な乱高下に見舞われる展開が予想されるものの、さまざまな投資機会が生まれる中で、相場は上昇基調を維持できると当社は見ています。そのためには、年初に想定していたような形とは異なる、より選別的な「投資対象の拡大」が求められるかもしれません。

1. 不確実性がある中でも、相場は上昇し続ける可能性があります

供給主導の経済動向により市場は一段と起伏の激しい展開となることが予想されるため、投資家は断続的な乱高下に見舞われる展開を予想しておくべきです。目先のニュースの見出しだけでは、リスク回避姿勢に転じる理由にはならないかもしれません。地政学上の動向は短期的に市場の変動を招くことがありますが、長期的な利益見通しや市場のファンダメンタルズへの影響は、市場の初期反応が示すほど大きくない場合が多いと考えられます。企業業績は引き続き注視すべき主要な指標であり、堅調な収益性と継続的なAI関連投資に支えられ、多くの地域で予想を上回る好業績が続いています。

2. メガキャップAIの先にある投資機会

AI設備投資ブームの波及効果がより明確になるにつれ、当社は、好調な業績が持続し、非テクノロジーセクターへと「国境を越えて」広がっていくと見ています。当社は、AI関連投資の次の段階では、企業が導入を支えるために必要な物理的システムに投資するにつれ、テクノロジー以外のセクター、すなわち資本財、インフラ、公益事業などがますます恩恵を受けると予想しています。

債券利回りの動向には注意が必要ですが、夏場はボラティリティが低水準で推移するという見通しも妥当でしょう。新興国市場も恩恵を受ける好位置にあると考えられます。北アジアはAI

のメガトレンドに、中南米は素材ブームに支えられています。全体として、新興国市場はテクノロジーセクターへの大規模エクスポージャーと堅調な利益を提供する可能性があります。これは米ドル安を背景としており、当社は、当該市場領域が依然としてグローバル投資家から軽視されていると考えています。

3. 投資家は「分散投資対象をさらに分散」すべきです

「分散投資対象をさらに分散する」ことは、今日の市場でも依然として重要な原則です。現在、幅広い資産クラスで利回りが魅力的になっているため、投資家は、国債、プライベートクレジット、インフラ、株式インカム戦略など、多様な収益源を活用することで、より強靱なポートフォリオを構築できます。これは、「利回りに機会を見出す」というテーマを裏付けるものです。

インカムの創出は、市場の不確実性の中でも安定性と回復力をもたらします。当社は、アクティブ運用の債券戦略（例：短期デュレーション、30年物英国債、インフレ連動英国債など）、低ベータ株式戦略（不動産およびインフラ）、株式インカム戦略、あるいはパブリックおよびプライベートクレジット市場における幅広い戦略に焦点を当てるのが最善のアプローチであると考えています。

結論：長期的な目標に重点を置き続け、さらに賢く分散投資を行う

投資家がますます複雑化する世界情勢を乗り切っていく中で、経済の不確実性と市場の回復力とのかい離は、2026年も引き続き特徴的な要素となるでしょう。地政学的な不確実性、供給側の圧力、政策動向の変化が引き続き課題をもたらす一方で、堅調な企業収益、AI投資による変革的な影響、そして資産クラス全体におけるインカム機会の改善が、市場にとって重要な支えとなっています。

HSBCアセットマネジメントのグローバル・チーフ・ストラテジストであるジョー・リトルは次のように述べています。「こうした現状を踏まえ、投資家は目先のニュースの見出しよりも、長期的な投資機会に引き続き注目すべきです。今後の市場展開では、一部の主要ハイテク企業に限定されていた動きが拡大し、新興国市場やインフラ、素材、資本財セクター、さらに分散型インカム戦略など、幅広い分野で投資機会が生まれると予想されます。ただし、こうしたテーマに対して割高な価格で投資しないよう注意が必要です。『2つのショックと1つの

ブーム』によって形作られる世界で、分散を維持し、質の高い収益に注目して、新たな成長ならびにインカム機会を捉えることが、今日の『別世界』という環境下で、強靱なポートフォリオを構築する上で極めて重要になるでしょう。」

<当資料のお取扱いにおけるご注意事項>

当資料は、HSBC アセットマネジメント株式会社（以下、当社）が投資者の皆様への情報提供を目的として、HSBC アセットマネジメントが作成した資料を翻訳・編集したものであり、金融商品取引契約の締結に係わる勧誘を目的としたものではありません。

当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。

当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

注記：

HSBC ホールディングス plc

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国・ロンドンに本部を置いています。HSBC グループは、世界の 56 の国と地域でお客さまにサービスを提供し、3 兆 3,060 億米ドル（2026 年 3 月末現在）の総資産を持つ、世界有数の金融グループです。

HSBC アセットマネジメント

HSBC アセットマネジメント株式会社は、HSBC グループの資産運用部門として個人・事業法人・機関投資家に投資ソリューションを提供する、HSBC アセットマネジメントに属しています。

HSBC アセットマネジメントは 20 の国と地域に拠点を持ち、それぞれのマーケットを深く理解している国際的なネットワークを活かして、お客さまにグローバルな投資機会を提供しています。

HSBC アセットマネジメント全体の運用資産は約 8,630 億米ドル（2026 年 3 月末現在）です（HSBC Jintrust Fund Management Company Limited を除く）。



HSBC アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 308 号

加入協会 一般社団法人資産運用業協会／日本証券業協会